

農林水産省登録
第15809号



適用病害が広い
野菜の殺菌剤

ダイセド[®]
水和剤

®:登録商標



Bayer CropScience

野菜の殺菌剤

■有効成分:イプロジオン……20.0%
:塩基性塩化銅……67.2%
(銅として40.0%)

■毒性:普通物

ダイセド®

水和剤

特長

1. 野菜の主要病害にすぐれた効果を示すロブールと、細菌性病害、疫病、べと病に効果の高い塩基性塩化銅との混合剤です。適用病害の幅が広がり、基幹防除薬剤として最適です。
2. うどんこ病、炭疽病などに相乗的な効果を示すほか、ばれいしょの菌核病と軟腐病を同時防除することができます。
3. きゅうり、トマト、すいかには収穫前日まで使用できます。
4. 混合製剤ですので、現地混用の手間がいらず、使いやすく省力的です。
5. 人畜毒性が低く、安心して使用できます。

■適用病害と使用方法

2007年2月現在の登録

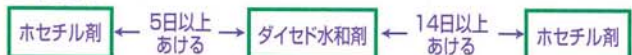
作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期*	総使用回数*			使用方法
				本剤	イプロジオン	銅	
たまねぎ	灰色腐敗病 軟腐病 灰色かび病	500倍	7日	3回	4回 (種子粉衣は1回、 は種後は3回)	-	散布
トマト	灰色かび病 疫病		前日				
レタス	菌核病 斑点細菌病 腐敗病		14日				
ばれいしょ	軟腐病 菌核病 疫病		前日	4回	4回 (種いも散布は1回)		
きゅうり	灰色かび病 べと病 うどんこ病 炭疽病 斑点細菌病				5回 (種子粉衣は1回、 は種後は4回)		
すいか	炭疽病 つる枯病 うどんこ病 菌核病						
らっきょう	黒点葉枯病		30日	3回	3回		

*印は収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

⚠ 注意事項

- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布して下さい。
- きゅうり、すいかに対して幼苗期や草勢の弱っている時および高温時には葉害を生ずるおそれがあるので使用をさけて下さい。
- レタスに使用する場合は、葉害を生ずるおそれがあるので必ず炭酸カルシウム水和剤を加用して下さい。
- 使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けて下さい。
- 過度の連続散布はさけて下さい。

- きゅうりに使用する場合、ホセチル剤(アリエッティ水和剤、アリエッティC水和剤、アリジマン水和剤)を近接散布すると、場合によって葉害を生ずるおそれがありますので、以下の使用方法を厳守して下さい。



- 眼に入らないように注意して下さい。眼に入った場合は直ちに水洗し、医師の手当てを受けて下さい。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきって下さい。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。

- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、適切に処理してください。

バイエルクロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
www.bayercropscience.co.jp